三島市　（通巻第77号）

郷土資料館だより

Vol.27. No.2
2004. 1. 10

〈6月7日開催のふるさと講座「錦田地区を歩く」より〉
旧錦田村の谷田方面を訪ねてみましょう。（3ページ参照）

企画展「竹の今昔物語」　～開催中　平成16年２月22日(日)まで～

竹が開花するとネズミが増える?!

「竹は花が咲くと枯れる」といわれます。実際に種類により周期は異なりますが、およそ60～120年の周期で、同種の竹や笹が全国的に開花し、そして枯れてしまいます。しかし、枯れた竹類の新しい世代は、種属の存続のために開花し実をつけ、その実から新しい世代が生まれてきます。

開花した竹（富士竹類植物園）◀

さて、この竹の開花とネズミの異常発生には密接な関係があります。竹や笹はイネやムギに近い種類で栄養価も高く、小麦に匹敵するといいます。その実は10アール（約１反歩）あたり米俵で３～４俵にもなります。一方ネズミの生息数は食物の量によって調整されることから、竹や笹の実が山を覆ったとき、これをエサとしてネズミ算式に増殖するのです。竹類の実を食べ尽くした後、食料を求めてネズミは植林地や里の田畑、人家へと侵入し害をなします。

箱根開花の碑（箱根町小塚）◀

身近な例では、昭和８年（1933）から10年にかけて箱根全山で篠竹が開花し、ネズミ（ハタネズミ）が増殖しました。そして竹の実を食べ尽くした後に、林業に甚大な被害を与えました。最終的には芦ノ湖を泳ぎ渡り、その途中に溺死し、深良用水取水口に大量の死骸が集まり、取り除くのにたいへん苦労したといいます。

国道138号線沿い箱根町小塚に「箱根開花の碑」が建てられています。これには「箱根全山に自然繁茂せる篠竹は、…村内全面積約二百町歩ことごとく枯れ死す。時偶野ねずみの繁殖甚だしく竹の実を食い尽くして、植林及び農作物に被害を及ぼし、県当局の援助を受け駆除に努む。…」と刻み、後世へ残しています。それからすでに70年経たので、遠くないうちに篠竹が開花すると予想されます。

企画展「三島の文化財紹介（後期）」

期　間　９月14日(日)～11月９日(日)
入場者　9095人

７月９日から開催の企画展「三島の文化財紹介」も展示資料を入れ替え、静岡県で行われる「わかふじ国体」の種目「文化芸術」として、９月14日より開催しました。

後期は玉澤妙法華寺所有の重要文化財「絹本着色日蓮上人像」、「絹本着色十界曼荼羅」（それぞれ複製）、三島信用金庫所蔵の「三島宿風俗絵屏風」、緒明邸梅御殿の杉戸絵、前期より引き続き、高木正勝氏所蔵「顕長銘埋納経壺」、光安寺所蔵「板碑」、また三四呂人形などを展示しました。

県内外の方々にご覧頂き、三島の歴史と文化を鑑賞していただけました。

◀「絹本着色十界曼荼羅」鎌倉時代後期（妙法華寺蔵）

ふるさと講座

「錦田地区を歩く」

錦田公民館（鈴木講師）◀

開催日　6月7日(土)
講　師　鈴木　辰己　氏（郷土資料館運営協議会委員）
参加人数　19名
コース　錦田公民館出発→井之森神社→向山小学校前ハイキングコース看板を見ながら説明→馬頭観音→亜鉛工場跡→向山古墳群→錦ヶ丘分譲地入り口にて覚応院塚の説明→夏梅木古墳群（古墳公園）→駒形神社（コマタケさん）→猪土手→赤王バス停前の道標→餅井坂→玉沢妙法華寺（昼食及び休憩）→妙法華寺祖師堂→本堂→鐘楼→太田家累代の墓→竹倉八王子神社前→正眼寺湧水池→大川真宅湧水（ミシマバイカモ）→錦田公民館到着

亜鉛工場跡◀

夏梅木古墳群◀

今年度第２回ふるさと講座は「錦田地区を歩く」と題し、錦田地区に残された歴史や民俗の名所旧跡を訪ね歩きました。錦田地区は大場川から東、箱根峠にかけての一帯で、その大部分を箱根西麓が占めています。錦田箱根西麓は畑作を中心とした農作物の豊富な地域で、同時に歴史や民俗の宝庫でもあります。

猪土手◀

当日は錦田公民館を起点として錦田地区を一周し、再び錦田公民館に戻ってくるというコース設定で行われました。梅雨の時期にも関わらず、幸い晴天に恵まれ、約８kmの道のりを一日かけて歩きました。

向山小学校を過ぎ、北沢亜鉛工場跡にたどり着くと、参加者の方から当該地の植生についての調査データ報告があり、併せて講師より夏梅木の大火について説明もありました。更に進んで、今は錦ヶ丘分譲地となっている北側の雑木林の中にひっそりと佇むコマタケさん、猪を追い落としたという猪土手など、普段ではめったに見ることのない場所を見学しました。東大場を抜け、函南町との境にある餅井坂を過ぎ、お昼を回った頃、玉沢の妙法華寺に到着しました。休憩の後は、妙法華寺や太田家累代の墓を見学し、竹倉の湧水池で清流に咲くミシマバイカモを見ながら、終点の錦田公民館へ向かいました。

前半は上り坂も多かったためか、ゆっくりとしたペースでしたが、参加者の皆さんは疲れた様子を見せることなく、約８kmの道のりを元気に歩いていたのが印象的でした。

故郷の名所旧跡が失われつつある中で、それらを次世代に継承していく意味でも、今後もこうした企画を続けていきたいと思っております。

玉沢　妙法華寺◀

土ねり◀

縄文土器づくり教室

～三島のルーツを訪ねて～

恒例の夏休み縄文土器作り教室ですが、今年は中学生向けに行われていた「三島のルーツを訪ねて」と合併する形で行われました。

参加者は市内に住む小学５年生から中学２年生までの41人です。

一日目７月25日㈮は「土ねり」「成形」です。午前中は赤土、粘土、砂に水を混ぜ、約２時間かけてねりあげ、午後は練った粘土を使って円盤状の底を作り、底の上に粘土を積み上げ、形を完成させました(輪積み法)。各作業の間に、人面墨書土器の展示を見ながら古代生活の話がありました。

成形◀

二日目８月13日㈬は、場所を坂公民館に移して「焼成」と「古代体験」です。ブロックで炉をつくり、その中に土器を入れて焼きました。焼成の時間を利用して、勾玉作り、火起こし、縄文クッキー作りといった古代体験を行いました。勾玉作りは滑石という柔らかい石を利用し、約２時間程度で仕上がりました。火起こしは、舞ぎり法という方法を試みましたが、なかなか点火しないグループもあり、四苦八苦している様子でした。縄文クッキーはそば粉、くるみ、蜂蜜、ウズラ卵などの材料を混ぜ、瓦の上に載せて、先ほど火を起こした種火を利用して焼きました。

ちょうど古代体験が終わった頃、炉の中から赤銅色に焼きあがった土器が姿を現し、一人も割れることなく立派に出来上がりました。

夏休みワークショップ

７月20日から８月24日にかけての毎日曜日午前中に、郷土資料館内でワークショップを行いました。

- **勾玉作り**（７月20日）講師：館学芸員
  参加者　15人　滑石を使って勾玉作りを行いました。
- **裂き織り体験**（７月27日）講師：杉山洋子さん
  参加者　15人　館にある機織り機を使って、裂き織り体験を行いました。

竹細工のおもちゃ作り◀

折り紙＆ペーパークラフト◀

- **竹細工のおもちゃ作り**（８月３日）講師：瀬川到さん
  参加者　９人　竹トンボや竹笛を作りました。
- **折り紙＆クラフトワーク**（８月10、17日）
  講師：館学芸員
  簡単な折り紙や、型紙を使ったクラフトワークを行いました。
- **裂き織り体験**（８月24日）講師：杉山洋子さん
  参加者　11人　館にある機織り機を使って、裂き織り体験行いました。

裂き織り体験◀

三島市教職員スキルアップ研修

開催日　8月6日(水)
講　師　館職員
参加者　37人

三島市内の学校に勤務する教員を対象に、博物館と学校との連携を図ることを目的として、今年度初めて試みた研修です。

内容は3部構成とし、第1部では三島の歴史についての講座、第2部では実際に郷土資料館の展示資料を見ながらの解説、第3部では参加者と館職員との討論を行いました。

参加された先生の中には、市外から勤務している方もいるため、「三島の歴史についてなかなか学ぶ機会がなかったけれども、この講座で三島の歴史に触れることができて良かった」という声もありました。また、実際のモノに触れる＝体験を通じてより効果的な教育ができるのではないかという感想もあり、今後は社会教育施設としての博物館の役割を果たすべく、学校教育ともいろいろな形で連係していくことが望ましいと思われます。郷土資料館は、普段から各学校の社会科見学等で利用されていますので、よりよい博物館活動の実現に向けて、今後もこういった形で市内の先生方との連携を深めていけたらと考えております。

郷土資料館運営委員会視察研修　報告

10月5日(日)　三島→諏訪市博物館→下諏訪町歴史民俗資料館→三島

諏訪市博物館◀

諏訪地方は長野県の中央にあり、諏訪大社を控え下諏訪宿は甲州街道・中仙道の宿場であり、現在では精密機械の生産で知られます。三島市と類似が見られる土地柄ということで今回視察しました。

諏訪市博物館は、常設展示では、御柱祭に代表される諏訪信仰の発生と変化、諏訪湖を取り巻く自然の中に生きる人々の暮らしぶりを象徴的に展示し、音響や映像を活用して展示を楽しく体験できます。

下諏訪町立歴史民俗資料館は、宿場時代の特徴を残す明治初年建築の商家を利用し、資料館として活用しています。中仙道を行き交う人々や事件を紹介しています。

近くに皇女和宮も宿泊した本陣岩波家が現存し、洗練された京風数寄屋造りの客室、庭園を訪れました。

下諏訪町立歴史民俗資料館◀

下諏訪宿　本陣岩波家◀

寄贈品

平成15年５月から９月の間、次の方々からご寄贈いただきました。ご協力ありがとうございました。（敬称略）

伊東　晴枝　（新谷）
「勅令で新制定の国民服の作り方」　昭和15年　１点
「夏の新型子供服・婦人服の作り方」　昭和12年　１点
「春向の毛糸編物新型集」　昭和11年　１点
「流行簡単服と遊び着集」　昭和26年　１点
くけ台　１点
国債　支那事変賜金　昭和15年　１点
洗濯機　昭和30年頃　１点
そろばん　１点
大日本帝国海軍徽章　１点
棒秤　１点

雑誌付録「国民服の作り方」昭和15年

大竹　精一　（徳倉）
角盆　近衛砲兵連隊除隊記念　大正10年頃　１点
杯　近衛砲兵連隊除隊記念　大正10年頃　１点

近衛砲兵連隊除隊記念　角盆と杯

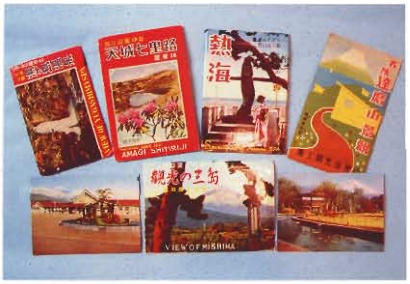
河合　貞江　（大宮町）
シルクハット　１点
国民帽　昭和15年頃　１点
山高帽　１点

杉山　正三　（長泉町）
循環式精米機　昭和40年代　１点

野口　厚　（玉沢）
中学校教科書　昭和254点

福尾　正夫　（北田町）
『カメラから見た沼津～三島～修善寺』　昭和３年　１点
三島製紙㈱株券　大正12年　２点
三島製紙㈱株券　大正７年　１点

渡辺　幸子　（南二日町）
絵はがき　昭和37年頃　98点
観光の栞　昭和37年頃　６点
観光写真　３点
スタンプ帳　１点
県立韮山高校校舎落成記念　昭和35年　１点

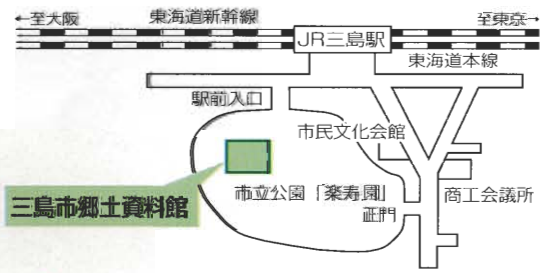

昭和30年代後半の絵葉書

お知らせ

「三島暦を読む」（３回連続）
１月31日、２月14日・28日
「三島暦」を読み解く基本的な知識や、実際に天保年間の一年分を解読します。また、平成17年度開館予定の仮称三島暦師の館についての計画もお話する予定です。
応募要領は、「広報みしま」１月１日号をご覧下さい。

利用案内

休館日　毎週月曜日（祝日の時は翌日、12月27日～１月２日）
開館時間　午前９時～午後４時30分（11/1～3/31まで）
入場無料　（但し、楽寿園入場の際、有料）



●三島駅（南口）から徒歩５分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより　Vol.27 №2（第77号）
発行日　平成16年（2004）１月10日（年３回発行）
編　集　三島市郷土資料館
〒411-0036 三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL　055-971-8228
FAX　055-981-3730
E-mail:kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL:http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/
発　行　三島市教育委員会